

(3) 市民で都市の楽しさを演出する街

現況と課題

熊谷市では広い歩道を持つ幹線道路が整備され、恵まれた公共空間を持つ中心市街地が広がっている。中心市街地の細街路についても、カラー舗装や電線の地中化、用水路の整備などが進められ、快適な空間が構成されている。このような空間を活かし、空き店舗や空き地も活用して、賑わいのある中心市街地として再生することが課題である。

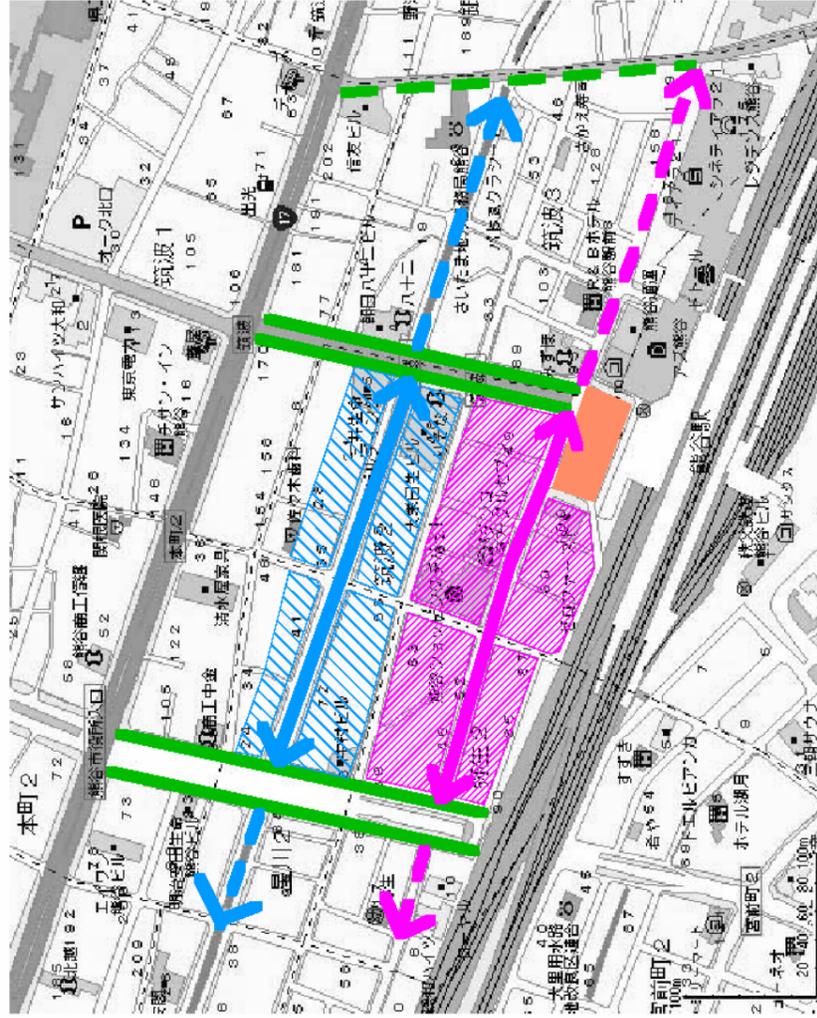
狙い

熊谷市の街路環境は、市街地整備への努力の積み重ねの結果、きわめて充実したものになっている。このような充実した公共空間を活用して、市民の演出による楽しい街づくりを進め、熊谷のホスピタリティの向上と中心市街地の振興を図っていく。

対応方針

1) 高齢者の活動の場としての公共空間

これまでの商店街の活性化の取り組みは、市役所をはじめとする行政と商店街によって専ら行われてきた。団塊の世代のリタイアの時期を迎えるに当たり、この世代をはじめ広範な市民との参加・協同による街づくり、とりわけ公共空間の演出等の有効活用を推進し、都市の顔としての中心市街地の再生を図っていく。



■公共空間演出 <個性化>

- ①用水路通り
テーマ：水辺を活かした「和風」街路
演出要素：和風の店構え、縁台、のれん、番傘、盆栽、水辺のアヤメ、軒先縁側空間
店舗商品：和菓子、茶、人形、和服小物雑貨、伝統工芸品
- ②駅前横断通り
テーマ：飲食の集積を活かした「グルメ屋台」街路
演出要素：屋台、縁台、オープンカフェテラス、ワゴンセール、世界の屋台店舗
店舗商品：懐かしい飲食、珍しい飲食、気軽な飲食、こだわりの飲食

■空き店舗、遊休地の暫定活用 <チャレンジの場、開業のためのインキュベータ>

- ①用水路通り（四季折々に、参加型のイベントを開催する）
春：各店舗で通りに向けたひな人形かざり
夏：アヤメ等、水辺の花まつり
秋：伝統工芸祭り（自作品展示販売）
冬：食文化まつり（抹茶と和菓子、伝統料理）
- ②駅前横断通り（四季折々に、参加型のイベントを開催する）
春：屋台製作体験イベント
夏：店舗実習コンテスト
秋：屋台芸術祭（屋台の芸術性を競うイベント、コンテスト）
冬：照明演出祭り（年末年始の夜景を演出するイベント、コンテスト）

2) 公共空間演出の方向

JR 高崎線と国道 17 号に挟まれた熊谷駅北口の中心商店街は、それぞれ個性的な街路によって構成されている。これらの個性を活かした演出の方向としては、以下のようなものが考えられる。これらの街路において、歩車道の棲み分けをより一層明確にするともに、道路占用許可等の円滑化を図ることが望まれる。

星川通り

テーマ：水辺を活かした「和風」街路

演出要素：和風の店構え、縁台、のれん、番傘、盆栽、日本の伝統色による色彩統一、水辺のアヤメ、軒先縁側空間

店舗商品：和菓子、茶、人形、和服小物雑貨、伝統工芸品

駅前横断通り

テーマ：飲食の集積を活かした「グルメ屋台」街路

演出要素：屋台、縁台、オープンカフェテラス、ワゴンセール、世界の屋台店舗

店舗商品：懐かしい飲食、珍しい飲食、気軽な飲食、こだわりの飲食

3) 空き店舗、遊休地の暫定活用

空き店舗や遊休地については、リタイア後の高齢者のチャレンジの場として暫定的な活用を図り、開業のためのインキュベータとして活用する。

星川通り（四季折々に、参加型のイベントを開催する）

春：各店舗で通りに向けたひな人形かざり

夏：アヤメ等、水辺の花まつり

秋：伝統工芸祭り（自作品展示販売）

冬：食文化まつり（抹茶と和菓子、伝統料理）

駅前横断通り（四季折々に、参加型のイベントを開催する）

春：屋台製作体験イベント

夏：店舗実習コンテスト

秋：屋台芸術祭（屋台の芸術性を競うコンテスト）

冬：照明演出祭り（夜景を演出するイベント）

にぎわいをつくる、自ら楽しむ活動



フリーマーケット（空き地利用も可能）



まちかどコンサート/リハーサル



チャレンジ屋台



夜景の演出

和風を活かした活性化活動



伝統を感じさせる演出



街路に向けた手作りの装飾品



空き店舗のコミュニティ講座



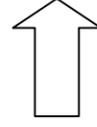
懐かしい移動店舗へのチャレンジ



現状



イメージ



(4) 近隣で安全・快適に買い物ができる街
現況と課題

厚木市の幹線道路は、厚木駅を中心とした放射状道路と、中心市街地を半環状に取り囲む国道129号、246号バイパスによって構成されている。国道129号は、市の南部で東名高速道路及び小田原厚木道路と結節しており、国道129号、国道246号バイパスの交通量が大きいことから、放射状道路との交点での交通混雑が著しい。また厚木駅周辺でも交通の混雑が激しい。

国道129号、国道246号バイパスや駅前の混雑を緩和するために、郊外の住区ごとの近隣サービスを充実し、高齢者の買い物等の利便性を高めるとともに、中心部への交通の集中を軽減させることが必要になっている。

特に郊外には、独立型の住宅団地が分布しており、高齢化が進めば買物等の日常生活に支障が起こる可能性がある。

狙い

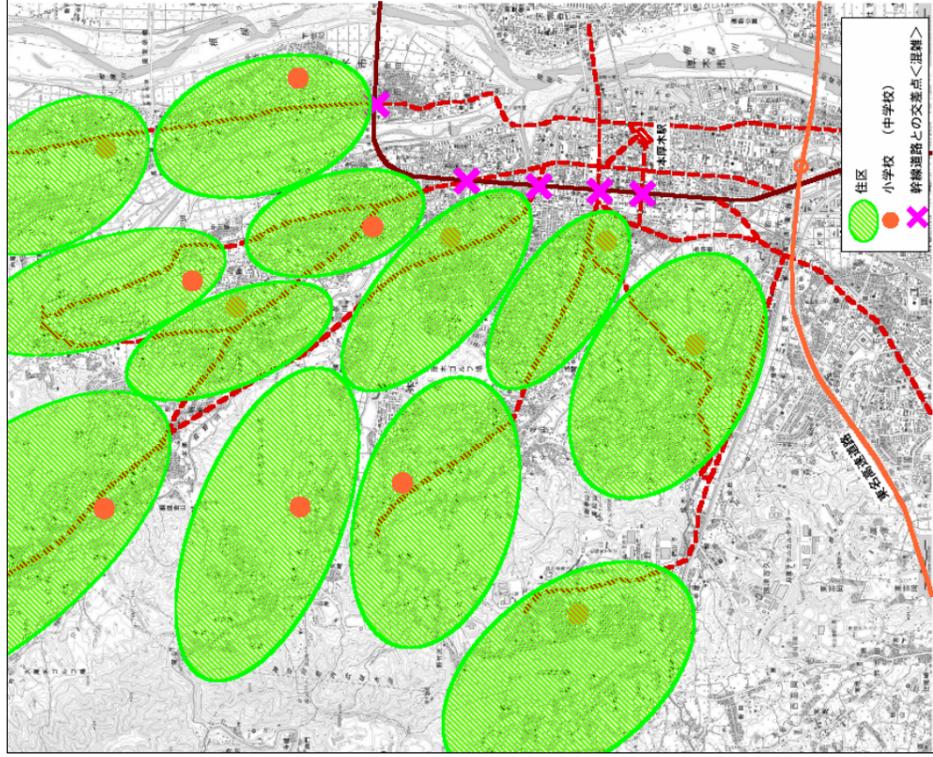
郊外の居住地における生活環境の充足度の向上を図ることで、高齢化への対応と中心市街地への集中を抑制するとともに、放射状道路の沿道利用に規制をかけることで、道路交通の円滑化、中心市街地等へのアクセスの改善を図る。

対応方針

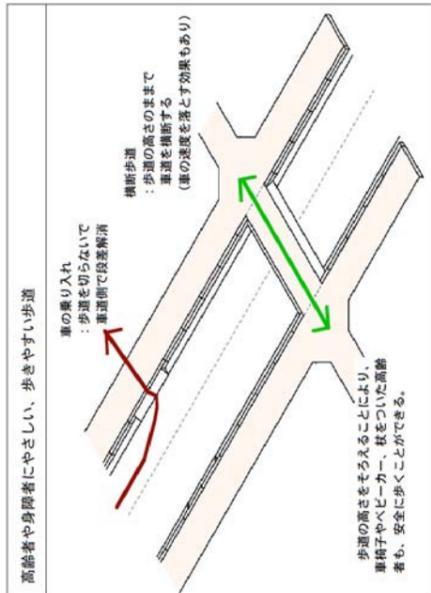
- 1) 近隣住区のサービスの向上
高齢化に対応した介護予防の一環として、学校の体育館やプールの休日開放などのほか、空き教室を活用したスポーツ施設を整備し、周辺の農村部を含めた健康管理の場として活用していく。
また団地内に立地する商業施設やサービス施設に加えて、リタイア者による店舗開設などの新規事業への取り組みを推進し、特技や趣味を活かしたチャレンジショップを住区内で展開し、近隣サービスの充実を図る。

- 2) 近隣住区のアクセス性の向上

郊外の住宅団地は計画的に開発されたものが多く、歩道が整備されているなど、従前からの市街地に比べて安全性が高い場合が多い。ただし、後期高齢者がやむを得ず運転せざるを得ない環境を改善するために、住区サービス会社やNPO等によるコミュニティバスの運行を検討し、歩行者の安全性を一層高いものにしていく



とともに、車の走行の安全性についても配慮した道路構造に改良していく。さらに車椅子やシルバーカーなどが容易かつ安全に通ることができるような配慮も必要になる。

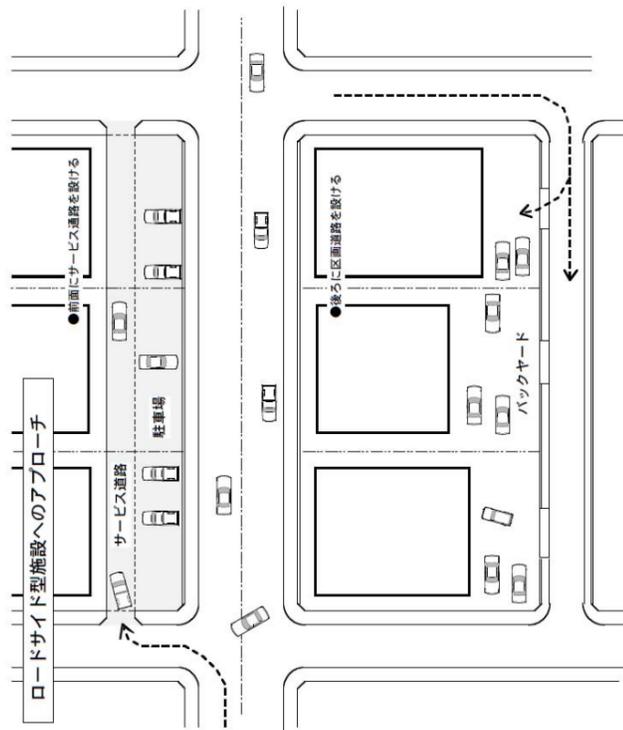
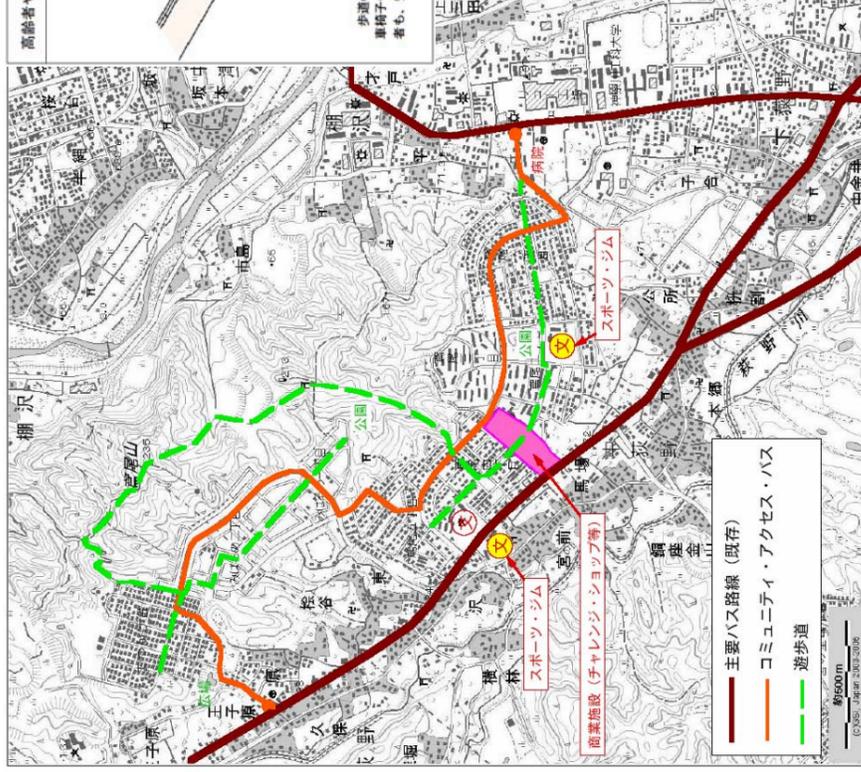


3) 幹線道路沿道の交通処理

幹線道路の沿道には、ロードサイド型の商業施設やサービス施設が多数立地している。これらの施設は、道路から直接それぞれの施設にアクセスできる便利さが受けているが、歩道の歩行者とりわけ車椅子の利用者等にとっては、路面の起伏や出入りの車が通行の障害になっている場合が多い。また、道路交通から見ても、ショートトリップの車が頻繁に入りたり、入場のために待機しているような状況は好ましいとはいえない。

地権者にとっても、これらの施設で沿道が埋め尽くされ、沿道隣接街区の裏側へ迂回できるといったような交通処理が不可能になることは、将来の沿道周辺地区における面的開発の障害になる。

各施設へのアプローチを別途設けさせると、一定の間隔で将来の道路建設を想定した空間の確保を図ること、ミニ区画整理を行って裏からのアプローチを義務付けることなどの対応が求められる。



(5) 公共交通の充実した利便性の高い街

現況と課題

合併前の柏市では、コミュニティ単位に公共施設を細かく配置し、住民ニーズに応えてきた。一方、沼南町では大津が丘地区に町民全体を対象にした各種施設の整備を行ってきた。合併によってこのような対応の違いを統一する必要があるが、高齢化社会における今後のサービスのあり方としては、施設の整備にとどまらず、インスタラクターの配置など、より充実したサービスの提供が求められている。

このような高度なサービスの提供のためには、民間のノウハウの活用等も必要であり、利用度を向上させるための効率的な施設配置の検討が必要になっている。

狙い

柏市では JR 常磐線、東武野田線、つくばエクスプレス (TX) の 3 線の鉄道が整備されている。これらと域内バス路線の連携強化を図ることで、公共交通機関サービスの充実と拠点駅周辺における商業・サービス機能の強化を進める。

対応方針

1) バス路線の強化

既存のバス路線(一部路線変更)のうち、鉄道駅間を結ぶバス路線等 (ex. つくばエクスプレス (TX) 柏たなか ~ JR 北柏、つくばエクスプレス (TX) 柏の葉 ~ 東武豊四季、つくばエクスプレス (TX) 柏の葉 ~ JR 北柏 ~ 東武増尾 ~ (JR 馬橋) (JR 我孫子) ~ 大津ヶ丘 ~ 東武逆井、JR 柏 ~ 大津ヶ丘 ~) を重点的に強化し、域内の公共交通ネットワークを強化する。これらの路線を強化する理由は以下のとおりである。また、厳しい財政状況の中、既存ストックの活用、多様な主体による連携協力という観点から、バス路線の補完的機能を担うものとして、企業の送迎バスを高齢者の移動手段として活用していく。

- ・市域全域が密度の高い公共交通網で全市域をネットワークでき、交通弱者の活動性の向上に寄与する。
- ・駅間を結ぶことで、片輪送による非効率性を緩和できる。
- ・運行距離が短いため、少ない台数で運行

頻度を高めることができる。

- ・幹線道路を通らないため、幹線交通への負荷がない。
- ・駅周辺の通行量が多くなれば、商業・サービス機能の集積が期待できる。

2) 駅周辺における商業・サービス機能の充実

地域におけるサービス機能の充実とバスの利用客の増大に向けて、駅周辺におけるサービス機能の強化を図る。

駅周辺に集積が期待される商業・サービス機能としては以下のようものが考えられる。

- ・拠点近隣センター (集会所、フィットネス、図書室、出張所など)
- ・医療 (医院等) 福祉施設 (相談所等) など
- ・商業施設 (住区では満たせない商業機能、介護用品等)

整備の方法としては、高齢者の健康維持、交流のための施設を PFI 等の手法を活用して整備、あるいは公共による整備の場合には、指定管理者制度の活用によって、幅広く民間のノウハウや活力を活用できるようにしていく。このような取り組みを契機として、徐々に医療や商業等の誘致・集積の交通結節点周辺における形成を図っていくことが期待される。

近隣センター () の現在の分布と拠点センター () の立地適地 (駅等)

